

※ **大塚糖液5%2ポート 100mL**

(ブドウ糖注射液)

貯法：室温保存

使用期限：容器に表示の使用期限内に使用すること。

使用時及び保管：取扱上の注意の項参照

注) 注意－医師等の処方せんにより使用すること

承認番号	22000AMX00264
薬価収載	2008年6月
販売開始	2004年9月

※ **OTSUKA GLUCOSE INJECTION 5% 2-PORT 100mL**

【禁忌 (次の患者には投与しないこと)】

低張性脱水症の患者 [本症はナトリウムの欠乏により血清の浸透圧が低張になることによって起こる。このような患者に本剤を投与すると、水分量を増加させることになり、症状が悪化するおそれがある。]

【組成・性状】

1. 組成

本剤は1本 (100mL) 中にブドウ糖を5g含有する。

2. 製剤の性状

本剤は、無色澄明の注射液である。

pH 約5.0 (製造直後の平均実測値)

3.5~6.5 (規格値)

浸透圧比 約1 (生理食塩液に対する比)

【効能・効果】

注射液の溶解希釈剤

【用法・用量】

注射液の溶解希釈に用いる。

溶解操作については、裏面を参照。

【使用上の注意】

1. 慎重投与 (次の患者には慎重に投与すること)

- (1) カリウム欠乏傾向のある患者 [ブドウ糖の投与によりカリウムが細胞内に移行し、一時的に血清カリウム値が低下し、症状が悪化するおそれがある。]
- (2) 糖尿病の患者 [高血糖を生じ、症状が悪化するおそれがある。]
- (3) 尿崩症の患者 [本症には適切な水分、電解質管理が必要である。本剤の投与により電解質等に影響を与え、症状が悪化するおそれがある。]
- (4) 腎不全のある患者 [水分の過剰投与に陥りやすく、症状が悪化するおそれがある。]

2. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

副作用が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

大量・急速投与：大量を急速投与すると、電解質喪失を起こすことがあるので、慎重に投与すること (第一次再評価結果その13、1977年)。

3. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているため、投与速度を緩徐にし、減量するなど注意すること。

4. 適用上の注意

- (1) 投与経路：静脈内に投与すること。
- (2) 調製時：本品を用いて溶解・希釈する注射液 (静脈内投与用) は、次の条件に適合するものであること。
 - ① 溶解液として5%ブドウ糖注射液が適切であること。
 - ② 容量として100mLが適切であること。

- (3) 投与前：①投与に際しては、感染に対する配慮をすること (患者の皮膚や器具消毒)。
②寒冷期には体温程度に温めて使用すること。
③開封後直ちに使用し、残液は決して使用しないこと。
- (4) 投与时：溶解・希釈した注射剤の用法・用量及び使用上の注意に留意して投与すること。

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：ブドウ糖 (Glucose)

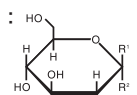
化学名：D-Glucopyranose

分子式：C₆H₁₂O₆

分子量：180.16

性状：白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはなく、味は甘い。水に溶けやすく、エタノール (95) に溶けにくく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。

構造式：



α -D-グルコピラノース：R¹=H, R²=OH
 β -D-グルコピラノース：R¹=OH, R²=H

※【取扱い上の注意】

- (1) 安定性試験
最終包装製品を用いた長期保存試験 (室温、3年間) の結果、本剤は通常の市場流通下において3年間安定であることが確認された¹⁾。
- (2) プラボトルを正立にして薬剤瓶と接続すると、薬剤が注入針の針穴を通じてプラボトルのゴム栓面にこぼれることがあるので、プラボトルの首部を持って傾け、注入針が薬剤に触れにくいようにして接続すること。
- (3) 注入針は薬剤瓶のゴム栓中央部に刺すこと。周辺部に刺すと薬剤瓶のゴム栓が瓶内に落ち込むことがある。
- (4) 包装内に水滴が認められるものや内容液が着色又は混濁しているものは使用しないこと。
- (5) 容器の液目盛りはおおよその目安として使用すること。

※【包装】

大塚糖液5%2ポート100mL 100mL 10本 PLABOTTLE (注入針付)
PLABOTTLEは、弊社の開発したプラスチック製輸液用ボトルである。

※※【主要文献及び文献請求先】

※主要文献

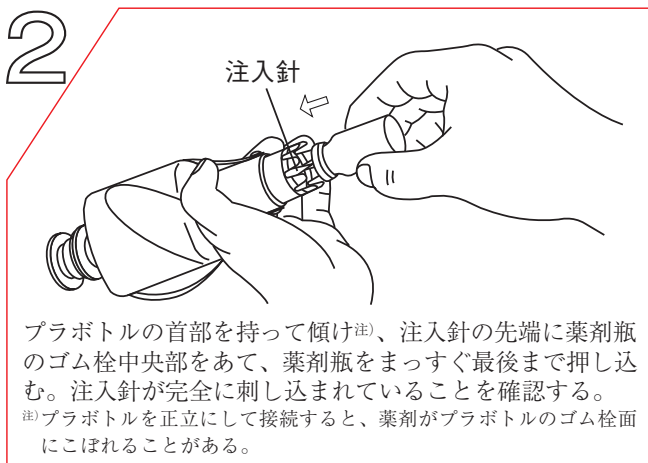
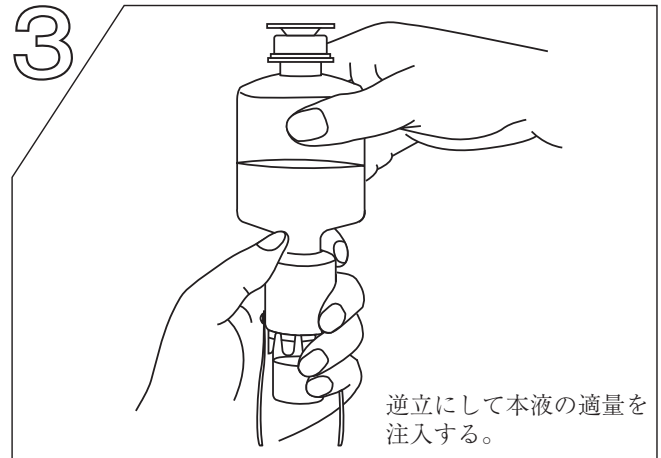
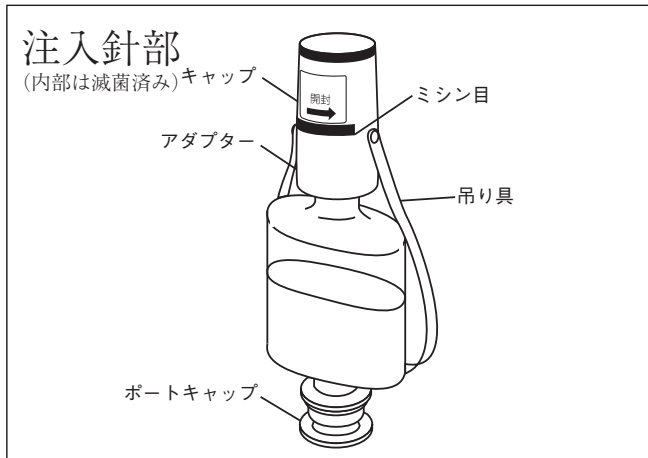
- 1) 品質統括部：社内資料 (安定性試験)

文献請求先

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求ください。

株式会社大塚製薬工場 輸液DIセンター
〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-2
TEL：0120-719-814
FAX：03-5296-8400

溶解操作方法



廃棄方法

アダプターから薬剤瓶を引き抜き、分別する。

